

通番	項目	発言者	質問・意見	回答	対応
<b>議事2 (2) アンケートの実施について (資料) 資料2-1, 2-2</b>					
1	資料2-1: 和泉市健康づくり・食育推進に関するアンケート調査結果報告書 (速報)	内藤委員長	・市民調査の回収率が26.2%と低くなっており、市民全員の意向を把握できているかは少し疑問である。現場にインタビューを実施して状況を把握することも必要になる。 ・アンケートのクロス集計結果を計画案に反映してもらいたい。		アンケートのクロス集計結果も踏まえて分析を行い、計画案に反映する。(P36-57)
<b>議事2 (3) 「第4次健康都市いすみ21-食育推進計画」(案)について 資料3</b>					
2	① 第1章 計画の位置づけについて	内藤委員長	・計画期間が12年と長いが、コロナ禍など自然の社会情勢の変容を想定するような仕組みも検討し、PDCAサイクルが回せるようにしていきたい。ここ数年はコロナ禍で健康づくりの活動が全国的に滞った現状があり、例えばICTを活用した取組など、必要な対応を検討していただきたい。	・毎年進捗管理をする予定である。また、令和12年度に中間評価を行い、進捗状況の評価と方向性の検討を行う予定である。	
3	② 第2章 第3次計画の評価について	藤原委員	・2章P5の第3次計画実施の値というのはいつの数値か。 ・評価のDとなっている項目について、計画期間中どのような取組をした結果、現状に至っているのかも合わせて記載いただけたらと読みやすい。	・健康増進計画は平成30年度、食育計画は平成28年度の値である。	計画策定時の値について、健康増進計画は平成30年度(一部平成29年度)、食育推進計画は平成29年度である。指標の策定年を記載する。関連データの分析・考察を行っていく。(P6,9)
4		永田委員	・幸福度は高いが、年齢区分などの結果は把握できているか。 ・このころの健康について、ストレスの程度や抱えているなどの質問があるとよかった。	・幸福度については年齢等でもクロス集計を行い、次回委員会でも報告できるようにする。	このころの健康については、昨年度に自殺対策計画の調査を実施しており、項目が重なるため、今回は最低限の調査項目としている。自殺対策計画の調査結果も適宜踏まえて考察を行う。
5		井上委員	・アンケート回答者は健康に関心がある人が多いと思われる。ボランティア活動や、地域活動への関心がある人の割合が高いが、実際に参加には至っていない、一歩踏み出していない人が多いのではないかと考える。健康なども受診していない人が多いと思うので、情報が個人個人へ情報が届くような取組ができるといい。		一歩踏み出していない人も取組につながるよう、ナッジ理論を参考にした効果的な啓発のありかたを取り組んでいく。また、多くの人に情報が届くように、関係各課や関係機関と協力して進めていきたい。
		内藤委員長	・市民調査については回収率が26%程度と、回答者にバイアスがあると考えられる。また、回答者の年齢として、若いよりも高齢者が多い。国のデータや他の調査結果も活用しつつ、アンケート結果はあくまでも1つの資料として、アンケート結果からすべてを判断しないようにしたい方がいい。		アンケートの結果のみではなく、インタビュー調査や統計データを組み合わせて分析を行う。(P59-65)
7		内藤委員長	・P37に掲載されているBMIの状況と、特定検診におけるBMIの違いはどうか。特定検診の方が対象者が多いため、実態としては参考になると考える。	・改めて確認する。	令和4年度特定検診検査受診者におけるBMI25.0以上該当率は、32.5%、20.1% (和泉市国民健康保険第4期特定検診検査実施計画及び第3期データヘルス計画より)。
8	③ 第3章 健康や食と暮らしの状況	石橋委員	・小中学生を対象の調査について、最近の小中学生は睡眠時間が短いことが問題とされている。起床時間・就寝時間以外にも、睡眠時間について把握できるといい。	・アンケート結果の起床時間、就寝時間から睡眠時間を概算することは可能であるため、改めて集計する。	
9		内藤委員長	・睡眠時間の確保は健康維持に重要であり、睡眠時間以外の活動について多面的に関わる必要がある。小中学生の睡眠時間の確保については、学校と市の連携が重要になる。		分析を踏まえ、睡眠の意義や身体に及ぼす影響などの啓発や健全な生活リズムを育む取組を反映していく。(P73)
		西川委員	・栄養面で、小さい子どもの栄養状態が悪いケースが多く、偏食や食べない子どもが多いという相談を受ける。給食年での子どもでも健康増進計画11-12時に、胃を休める時間が少なく、朝お腹が空く、朝ゆっくり食事をする時間もないため、食事がしっかりとらないという現状がある。 ・共働き家庭が多く、小学校中～高学年では朝食を食べないことも多く、給食を食べた後血糖値が上がり、昼間眠たくなるケースもある。運動不足も考えられる。		
10		沖田委員	・P38の生活習慣病予防・改善のための食生活の実践割合について、ポジティブな意見だけでなく、ネガティブな意見にも焦点を置いて記載いただいた方が、課題が明確になると考える。 ・P36の幸福度を重視した項目についても、多岐にわたって記載いただいた方がありがたい。	・意見を参考にし、修正する。	
11		藤原委員	・また、P37運動習慣者の割合について、アンケート結果と指標の値が異なるのはなぜか。	・指標の値は対象者を絞って集計しているため数値が異なる。	
12		内藤委員長	・指標の結果のみでなく、本質的な健康づくりとは何かを常に意識しておく必要がある。市民アンケートは前回との比較が必要になるが、全国・大阪府の数値と比較可能なものについてはデータを収集して比較、分析していただきたい。		収集可能な全国・大阪府のデータについては追加して分析を行う。(P11-35)
13		永田委員	・肥満傾向について、30%以上の病的肥満の肥満外来受診を助めているが、受診率が低く課題になっている。和泉市医師会では夜間外来を設けて受診率を上げる対策を検討している。子どもの肥満は将来的なメタボの予備軍になるため対策が必要である。 ・また、泉州圏は肥満率が高い傾向にあるが、こどもも含めて教育が必要である。		第6章以降のライフステージに応じた取り組みへの反映を検討する。(P73-80)
15		内藤委員長	・統計データからは把握できないこともあるため、現場の足も踏まつつ和泉市の健康課題を検討いただきたい。		インタビュー調査を踏まえて検討を行う。
16		前田委員	・高と口腔の健康の今後の課題として、現在幼稚園では歯科検診を実施している。保護者の意識も改善するため、3歳児を対象として親子検診をはじめ、好評をいただいている。 ・食育の場にも歯のケアをする習慣をつけるため、園庭遊戯を通して保護者への啓発も行っています。 ・小さい子どもでは言葉での説明が難しいため、模型やエロゲンアークなど視覚で字を教える教材を使いつつ、歯の衛生が体の健康を支えていることを伝えていきたいと考えている。	・現状の取組や課題に対し提案したいと思うが、和泉市健康づくり推進市民会議や食育推進連絡会議でも情報収集しており、今回の内容を踏まえて次の課題に対して取組を考えている。 ・園庭における健康づくりは重要なポイントになるため、大変貴重な意見であり取り入れていただきたい。また、具体的なアクションプランについては第6章以降で記載予定のため、次回以降の委員会でもお示しさせていただきたい。	第6章以降の歯と口腔の健康の取り組みへの反映を検討する。(P75)
17		橋本委員	・もう少し具体的な取組について記載してもらえると、市民も分かりやすいと考える。 ・商工連携所は企業の主体であるが、企業で健康経営を通して職員の健康づくりに取り組んでいる。そのような取組についても言及いただけたらとありがたい。		第6章以降の健康づくりに関する地域づくりや地域・団体の取り組みへの反映を検討する。(P78,79)
18		内藤委員長	・市民と企業等が協力して取り組む必要性もある。また、地域における福祉という面からも健康づくりを取り組むことも重要であり、理念の面に入れた方がいい。 ・第3章から総括して第4章へのつながりプロセスが分かりにくいため、データ以外の情報も踏まえて整理をいただき、4つの柱に整理した図解について示していただきたい。 ・食育における栄養・食生活と、健康づくりに関する栄養・食生活が重なる部分のつながりを感じたい。		地域における健康づくりの推進策(ヘルシイ計画)であることを念頭に取り入れる。(P67)
19	④ 第4章 次期プランに向けた課題と取組の方向	早納委員	・食育という言葉を知らない人と、言葉の意味を知っている人の差はほとんどないと思う。 ・食育という言葉は包括的な意味になるため、曖昧な意味になりすぎないように使いつつは区別を付ける必要がある。		第6章以降の健康づくりに関する地域づくりや地域・団体の取り組みへの反映を検討する。(P78,79)
20		永田委員	・食育は教育という視点だけでなく、正しく食べて正しくつづいていくイメージはした方がよくなりやすいと感じる		第6章以降の健康づくりに関する地域づくりや地域・団体の取り組みへの反映を検討する。(P78,79)
21		西川委員	・コンビニやファーストフード店が溢れている現代の小中学生を対象とした食育講座は、1日2時間より短い授業案をとれるようにという指導をしている。		地域における健康づくりの推進策(ヘルシイ計画)であることを念頭に取り入れる。(P67)
22		嶋田委員	・朝食は規則正しい食事をとれているが、夕食などでファーストフードなどを取っているケースもある。学校では先生方が食育を実施しているが、家庭においても食育が実践できるように取組を進める必要がある。		第6章以降の健康づくりに関する地域づくりや地域・団体の取り組みへの反映を検討する。(P78,79)
23		内藤委員長	・委員から出た課題を解決するヒントとなる計画にまとめていただきたい。 ・現場によって望ましい食事と、違う生活をする人がおり、行政がどのような支援ができるか、ぜひ議論していただきたい。		第6章以降の健康づくりに関する地域づくりや地域・団体の取り組みへの反映を検討する。(P78,79)
24		藤原委員	・食ロスでは市民にも広まっており、1515運動のように、食育の開始と終わりにには食卓を残さず食べようとしている。食育として、ファーストフードをとってもいいが野菜をとる必要があるなど、メッセージを届けたい対象者に届くよう、和泉独自の分かりやすいメッセージを考えてもらいたい。		第6章以降の健康づくりに関する地域づくりや地域・団体の取り組みへの反映を検討する。(P78,79)
25		上杉委員	・4章についてみると、強弱がない状態で書かれているため、3次計画の中で強化した部分や、重点的に取り組まないとはいけない取組について強調して記載いただきたい。 ・第4章の健康について、和泉市のデータのみになっているが、全国や大阪府のデータと比較できず書き方を整理しただけだ。 ・特定検診の受診率向上や、食育における健康づくりなどは府と市で連携している内容であるため、市の中で完結しているような具体的な取組については、連携して取り組むような記載にした方がいいと考える。		第4章において、第2章・3章から見ると本市の特性を本気で分析し、特に重点的に取り組む必要がある項目は強弱をなく強弱をつける。(P59-65) 収集可能な全国・大阪府のデータについては追加して分析を行う。(P11-35)
26		内藤委員長	・3章でのデータを含められた課題の整理、4つの柱となったロジックモデルの経緯や期待される効果なども4章5章でもまとめていただきたい。 ・ウェルビーイングについて、市民で知らぬ人が多くいると思うため、スローガンの中にウェルビーイングという単語を入れて、なんだろという関心を持ってもらうのもいい方法かと思う。 ・家2章と25章を合わせて、笑顔を促す健康都市〜ウェルビーイングのまち〜などどうか。 ・また、食べる力は生きる力というフレーズも良いと思う。 ・ウェルビーイングは身体的・精神的・社会的に健康な状態であることになっているが、どのように生き、どのように死んでいくかという視点を入れていく必要があると考える。 ・医療界でも、人工呼吸器や経管栄養を使用するかどうかなど、どのように生きて、どのように死んでいくのかというACPの観点の問題になっている。和泉市でもぜひウェルビーイングという視点を取り入れたい。		第4章5章の書きぶりを修正する。(P59-71)
27	⑤ 第5章 基本的な考え方 スローガンについて	永田委員			第5章の書きぶりを修正する。(P59-71)
28		内藤委員長	・ウェルビーイングは日本では馴染みがないが、1945年にWHOが健康の定義をした頃から存在する言葉である。今年の管理栄養士の国家試験にも出た注目すべきキーワードであり、うまく活用することが重要である。 ・食育を基盤とする3つ程度に絞ったうえで、次回の検討委員会でも議論していただきたい。		第5章の書きぶりを修正する。(P59-71)
29		石橋委員	・健康都市いすみはどうか。 ・家11章や13章などいいのではない。いすみを使った17章や18章もよい。		第5章の書きぶりを修正する。(P59-71)
<b>議 事</b>					
30	副市長挨拶	副市長	・アンケートは課題設定のための分析・考察までをしっかりと行っていく必要がある。 ・幸福度満足度調査について、昨年度に実施した分析が終了している幸福度満足度調査も検討材料に活用していただきたい。 ・アンケートに限らず地方公共団体のデータ等を駆使して計画づくり、課題設定に役立てていきたい。 ・PDCAサイクルについて、11年度に度だけ中間評価のように見えるが、KPI、KGI両方とも含めて毎年評価を行う点についても明記したい。 ・第3次計画の中期について、健康の11項目中5項目のみ、食育は17項目中5項目のみが達成されている。深刻に受け止めている。目標に達していない理由とし、①関係部署の連携が足りなかった、②目標を達成するための手段、何をすべきかが見えていないのか、③目標のハードルが高すぎた、以上の3点を、分析・考察を通してなぜ達成できなかったのかをしっかりと書き留めていきたい。 ・和泉市は平均寿命の伸び及び健康寿命の伸びが都道府県に比べて、大阪府や西にない特徴である。この状況の中で健康寿命の伸びを目指すことを積極的に計画に入れるのか、時味が必要であると考える。 ・現状の市は主に検査してわかるようなデータが中心だが、例えば開閉などの程度あるか、〇〇ができるなどの検診データでは得られない情報が必要なのではない。 ・肥満ややせの問題については注視しており、睡眠、ライフスタイル、地域活動、食生活、市民にわかりやすい広報戦略など、骨太の方針に合わせるべき内容であると感じている。 ・全国規模のスマートウェルネスシティ首長会議ではプロジェクトの先進事例が多数あり、参考にしながら和泉市の取組を考えていきたい。 ・第4章へのつながりという指摘もいただいたが、国の枠組みに沿った枠組みではなく、和泉市独自の枠組みについて検討したい。また、特に力を取って取り組む内容について区別して記載したい。 ・食育という言葉についても、使い方について検討していきたい。 ・健康はスローガンに課題はなかったが、個別的な課題は委員の先発から頂いたが、ダイバーシティな社会を背景として、自立・自己決定という発想が大事と考えている。スローガンの中には、自分で考えるという発想が1つ含まれていないが、自己決定という視点も踏まえて検討したいと考える。	クロス集計の結果を踏まえて分析。(P36-57) 収集可能な全国・大阪府のデータについては追加して分析を行う。(P11-35) 計画の評価方法について追記を行う。(P85) 指標のうち達成できなかった項目について、要因を分析し追進する。 第4章の書きぶりについて修正する。(P59-65) スローガンの候補を複数に絞って次回委員会でも提示する。(P67)	